

サステナビリティ重要課題

SF2030では、事業を通じて社会価値と経済価値の創出に取り組むことで企業価値の最大化を狙います。そのために、長期ビジョンとして初めてサステナビリティ重要課題を特定しました。

オムロンの存在意義は、「事業を通じて社会価値を創出し、社会の発展に貢献し続けること」であり、社会がどのように変化しようとも、変わることはありません。その使命を持続可能なものとするためにSF2030および中期経営計画「SF 1st Stage」は、サステナビリティ重要課題との完全統合を図って設定しました。

オムロンにとってサステナビリティとは、社会と企業の両方の持続可能性を追求することです。これからも社会の持続的な発展とオムロンの持続的な成長を目指してまいります。

SF2030におけるサステナビリティ重要課題

SF2030目標

1

事業を通じた社会的課題の解決

事業を通じた社会的課題の解決により、
社会価値を創出するとともに
オムロンの持続的な成長を牽引する

SF2030でフォーカスする社会の変化因子「高齢化」、「気候変動」、「個人の経済格差」から、全社で捉える3つの社会的課題「カーボンニュートラルの実現」、「デジタル化社会の実現」、「健康寿命の延伸」を解決し、持続可能な社会の発展に貢献している状態

2

ソーシャルニーズ創造力の最大化

オムロンの持続的な成長のために競争力となる
ビジネスモデルの進化と
新たな事業創出の取り組みの拡大

必要なコア技術開発の進化やビジネスモデルへの組み込みなどを通じて、既存事業および新規事業の領域でソーシャルニーズ創造力を発揮し、新たな事業を生み出し続けている状態

3

価値創造にチャレンジする 多様な人財づくり

オムロンの持続的な成長の源泉となる
オムロンで働く多様な人財の能力やスキルを
引き出す人財マネジメントの進化

オムロンで働く多様な人財が成長できる機会を提供するとともに、能力・スキルを最大限引き出す人財マネジメントへと進化し、国籍・性別・働き方と関係なく、多様な人財が集まり、誰もが活躍している状態

4

脱炭素・環境負荷低減の実現

気候変動を「機会」と「リスク」の二側面から捉えた
企業としての社会的責任の実践と
更なる競争優位性の構築

バリューチェーンにおける温室効果ガスの排出削減と資源循環モデルの構築を通じて、社会的課題を解決すると共に、更なる競争優位性が構築されている状態

- Scope1・2*1:2016年度比▲65%
- Scope3 カテゴリー11*2:2016年度比▲18%

5

バリューチェーンにおける人権の尊重

企業の社会的責任として、
自社のみならずバリューチェーンで
働く人々の人権の尊重に対する影響力の発揮

国連の「ビジネスと人権に関する指導原則(UNGPs)」に沿って自社のみならずバリューチェーンで働く人々の人権の尊重に対して影響力を発揮し、人権侵害を許さない、発生させない風土と仕組みが形成されている状態

*1 Scope1・2: 自社領域から直接的・間接的に排出される温室効果ガス

*2 Scope3 カテゴリー11: Scope3は自社のバリューチェーンからの温室効果ガスの排出。そのうち、カテゴリー11は製造・販売した製品・サービス等の使用に伴う排出。

重要課題の特定にあたっては、「企業理念と存在意義」「2030年とさらにその先の社会からのバックキャスト」「環境や社会の持続可能性に貢献するための企業への要請」の3つの観点から検討。社内での議論及び外部有識者との対話による示唆を踏まえて、経営レベルで議論を重ねた結果、5つを重要課題として特定しました。

サステナビリティ重要課題抽出の観点

特定のステップ

- STEP 1 長期ビジョン検討**
オムロンの企業理念や経営の羅針盤であるSINIC理論、2030年の世界観などから、社会とオムロンの持続的発展に影響する社会の変化因子を特定し、長期ビジョンの方向性と目指すべき社会像を検討
- STEP 2 サステナビリティ重要課題特定において重視する3つの観点を整理**
● 企業理念と存在意義
● 2030年とさらにその先の社会からのバックキャスト
● 環境や社会の持続可能性に貢献するための企業への要請
- STEP 3 サステナビリティ重要課題を仮説**
以下の2軸でサステナビリティ重要課題を仮説
● 長期ビジョンを実践するための重要度
● ステークホルダーからの期待や要請
- STEP 4 経営レベルでの議論**
CEOが議長を務め執行役員が出席する執行会議で議論を実施(21年4月、6月)
- STEP 5 ステークホルダーとの対話**
仮説に基づき、機関投資家や有識者、NPO等との対話を実施し、当社グループへの期待や要請を確認し、サステナビリティ重要課題を整理
- STEP 6 長期・中期目標の設定**
整理したサステナビリティ重要課題に基づき、長期・中期の事業戦略と運営戦略を策定し、長期・中期目標を設定
- STEP 7 取締役会による承認**
執行役員が出席する執行会議での議論を経て取締役会にて決議(22年2月)

サステナビリティ重要課題への取り組みと企業価値の最大化

事業とサステナビリティを統合し、社会価値と経済価値の両方を創出することで、企業価値の最大化を目指します。

